

ロシュフォールの恋人たち (1966)

LES DEMOISELLES DE ROCHEFORT
THE YOUNG GIRLS OF ROCHEFORT [米]

メディア 映画
ジャンル ミュージカル
製作国 フランス
色彩 Color
時間 123分
初公開日 1967/08/08
公開情報 東和=タイハイ
映倫 G
1972/09 [WB]
リバイバル 2000/11 [ヘラルド]
2009/01/31 [ハピネット]

【キャッチコピー】

素晴らしい恋人を求めて 美しい町ロシュフォールに 胸ときめく愛のドラマが 花ひらく！（リバイバル時）

【解説】

年に一度のお祭りを目前に控える南仏の海辺の町ロシュフォール。双子の姉妹ソランジュとデルフィーヌは、それぞれ芸術を志しながら、理想の恋人との運命の出逢いを夢見ていた。そんな彼女たちの母親が営むカフェは、オートバイの曲芸師や画家の水兵など常連客たちで今日も大盛況。そして、いよいよお祭り当日。色々な催しで盛り上がる中、ソランジュとデルフィーヌを中心に様々な恋愛模様が繰り広げられていくのだが…。

「シェルブールの雨傘」で全編、台詞も唄という実験（悲恋ドラマというのも挑戦的だった）を行ったJ・ドゥミが、感情の昂ぶりと共に台詞が唄に、芝居が踊りに転ずるというミュージカルの黄金律に立ち返った。

陽光眩しい南仏ロシュフォールがその舞台。アメリカから当時人気のチャキリスと尊敬するケリーを招き、ドルレアックとドヌーヴの実際の姉妹に夢見る双子を演じさせ、よりジャズ的なルグランのスコアに胸踊る、ハリウッドを脱したミュージカルでは最良の一作。まさに“観終わって観客が幸福でいっぱいになるような”彼の映画哲学にこれほど適った作品もない。姉妹の母を演じるダリユーの変わらぬ愛らしさも嬉しい限り。彼女を想いながら（実は幼い息子の落とし種がある）、自分の“奥様（ダム）”という姓を恥じて姿を消した純情小父さんのM・ピッコリも素晴らしい。そんな大人の恋を綴りながら、一方で若い恋愛模様を、G・クロケのカメラは鮮やかな原色で展開する。ドヌーヴの恋人となる水兵（J・ペラン）が心の恋人の絵を描くと、それが彼女だったーなんてサワリも実にロマンチック。ドルレアックはケリーの“巴里のアメリカ人”に夢中になり、オートバイの曲乗り師のチャキリスは既にパートナーがいて（ケンカが絶えず、姉妹に色目も使うけど）、ちょっと損な役どころ。彼らの愛と音楽の情熱がクライマックスの祭で弾けて、何とも言えぬ余韻を残す“旅立ち”のフィナーレへ。小さな港町狭しとかけめぐる恋・歌・夢……。思い出すたび、その至福感に涙ぐんでしまうほど爽やかな映画なのだ。

【クレジット】

監督	ジャック・ドゥミ	Jacques Demy
製作	マグ・ボダール	Mag Bodard
脚本	ジャック・ドゥミ	Jacques Demy
撮影	ギスラン・クロケ	Ghislain Cloquet

音楽	ミシェル・ルグラン	Michel Legrand
出演	フランソワーズ・ドルレアック	Francoise Dorleac
	カトリーヌ・ドヌーヴ	Catherine Deneuve
	ジーン・ケリー	Gene Kelly
	ジョージ・チャキリス	George Chakiris
	ダニエル・ダリユー	Danielle Darrieux
	ジャック・ペラン	Jacques Perrin
	ミシェル・ピッコリ	Michel Piccoli
	グローヴァー・デイル	Grover Dale